

下関市立美術館開館40周年特別展

狩野芳崖、 継がれる想い

悲母観音からはじまる物語

会期：2024. **2.6** [火] ~ **3.17** [日]

休館日：月曜日(祝日の2月12日は開館)

料金：一般 1,200円 (1,000円)、大学生 1,000円 (800円)

※()内は平日料金。

※下関市在住の65歳以上の方は半額免除。

※18歳以下、及び高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在学の生徒は、観覧料が免除されます。

※障がい者手帳、療育手帳をお持ちの方は観覧料が免除されます。

※観覧料免除はいずれも公的証明書が必要です。

主催：下関市立美術館 毎日新聞社 tysテレビ山口

特別協力：国立文化財機構文化財活用センター、東京国立博物館

助成：一般財団法人自治総合センター

協賛：川島織物文化館、やまぐち文化プログラム

近代日本美術の胎動期に活躍した狩野芳崖（1828-1888）が、最期に手掛けた作品《悲母観音》（1888年、東京藝術大学蔵、重要文化財）。本展覧会では、この悲母観音からはじまる物語を紡いでいきます。

物語のはじめに、狩野芳崖の最初期の作品から晩年の作品までを展覧します。第1篇では《悲母観音》を起点とした物語—山田敬中や菱田春草にみる東京美術学校での制作作品、そして芳崖四天王に数えられる岡倉秋水と高屋肖哲の悲母観音研究や狩野芳崖作品の模写などをご紹介します。第2篇では、もうひとつの代表作《仁王捉鬼図》や芳崖晩年の仏教画題作品とともに、現代美術の中に息づく芳崖もご観覧いただきます。

芳崖の模倣作やそこからインスピレーションを受けた作品たちを通して、改めて芳崖の近現代美術への影響について考えます。

展覧会構成

物語のはじまり

長府藩の御用絵師であった狩野芳崖は、その晩年になって一転、日本美術史の中心に踊り出ます。今や近代日本画の先駆者または父という二つ名を得た芳崖ですが、彼のそれまでの画作はどのようなものがあるのでしょうか。ここでは、同じく御用絵師であった父について手習いをしていた十代の作品や江戸での修行を経て御用絵師として活動していたときの仕事、藩禄を失い辛酸を舐めた時代の作品、そして再上京後の50代の作品と、彼の生涯をたどるように展覧します。

左：狩野芳崖《八臂弁財天図》山口県立美術館蔵

右上：狩野芳崖《懸崖山水図》下関市立美術館蔵

右下：狩野芳崖《柳下鐘馗図》下関市立美術館蔵



第1篇 悲母観音からはじまる物語

《悲母観音》（1888年、東京藝術大学蔵）はその制作の直後より、多くの模作、類似作が作られ続けています。これは後進に本作品が共感または感動を与えたからだけではなく、美術史のなかで担ってきた役割にも依るところがあるゆえでしょう。

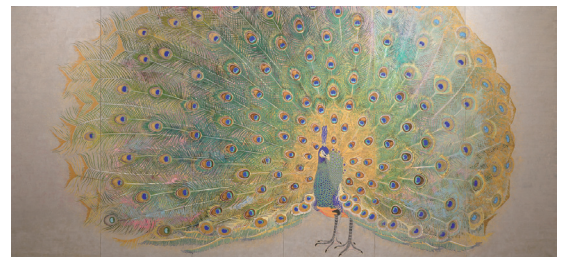
悲母観音のイメージは、近代日本画の幕開けという記念碑的な要素のみならず、日本の近代の幕開けそのものをも示すイメージとして成立しているように思います。そのようなイメージも相まって、本作品は今もなお多くの人の心を惹きつけてやみません。



左：狩野芳崖《悲母観音》1888年、東京藝術大学蔵、重要文化財
中央：二代川島甚兵衛《悲母観音綴織額》（綴織部分）1895年、東京国立博物館蔵、Image: TNM Image Archives
右：菱田春草《水鏡》1897年、東京藝術大学蔵

第2篇 仁王捉鬼図からはじまる物語

芳崖晩年に描かれた作品のひとつ《仁王捉鬼図》（1886年、東京国立近代美術館蔵）は、長らく個人の所蔵でした。このような状況もあり残念ながら悲母観音のように多くの模作や関連作が制作されてきた軌跡をたどることはできませんが、近年、二人の日本画家が本作品と向き合っています。四宮義俊は2014年から断続的に展開した「SOKKI」シリーズを発表し、自身の思いを明治美術の代表作を引用することで強いメッセージとして発信しました。また学生時代に仁王捉鬼図を観て感銘を受けた坂本英駿は、芳崖の画技に対する考え方を研究し《孔雀》シリーズを生み出しました。二人が紡ぐ物語が、芳崖ゆかりの地 下関で巡り合います。



左：狩野芳崖《仁王捉鬼図》1886年、東京国立近代美術館蔵
中央：四宮義俊《SOKKI - プラスティックドール・浮遊》2017年、作家蔵 ©SHINOMIYA YOSHITOHI
右：坂本英駿《孔雀》2019年、作家蔵

特別展の関連催事

①アーティスト・トーク

日時 2月11日(日)14時～ 四宮義俊(日本画家)
2月24日(土)14時～ 坂本英駿(日本画家)
場所 1階講堂および展示室 (講堂にお集まりください)
定員 50名

②担当学芸員による美術講座

日時 2月18日(日)14時～ 第1回 狩野芳崖について
3月10日(日)14時～ 第2回 狩野芳崖の弟子たちについて
場所 1階講堂
定員 50名

③スライドトーク (すわって展示解説)

日時 2月13日(火)、17日(土)、27日(火)、3月9日(土) 各日10時～ (約30分)
場所 1階講堂
定員 50名

④ギャラリートーク (まわって展示解説)

日時 2月13日(火)、17日(土)、27日(火)、3月9日(土) 各日14時～ (約1時間)
場所 展示会場 (2階展示ホールにお集まりください)

⑤造形教室 芳崖筆法講座 (仮)

日時 2月25日(日) 13時～ (約3時間)
場所 造形室
講師 坂本英駿
参加費 2,000円
定員 15名 (先着順)

⑥歴史×エンターテイメント 狩野芳崖コンサートin蛭遊苑

日時 3月3日(日)14時開演 (開場13時30分～)
場所 蛭遊苑 (長府待町)
参加費 1,000円
定員 100名 (先着順)

※①～④は予約不要。参加は無料ですが、当日の展覧会観覧受付が必要です。

⑤⑥は要予約。申し込みは美術館ホームページまたはお電話にて。

会期中のイベント

藍染講座 藍の苗床植えと藍染のお話(仮)

日時 3月2日(土) 13時～14時30分

講師 染色家・揚野純子

内容 藍の育て方と藍染めの方法を学びます。

※4月以降に関連講座を実施予定(参加は任意)

参加費 無料

持参物 肥料と種を持ち帰る袋

場所 下関市立美術館 講堂

定員 20名(先着順)

応募方法 要事前申し込み。1月20日以降～2月26日(月)までにGoogleフォーム、美術館に来館またはお電話で「①氏名(よみがな)、②年齢、③電話番号」をお伝えください。

お知らせ

年度末の3月18日(月)～3月31日(日)は館内整理及び展示替えのため休館です